



令和7年11月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

キンメダイの漁業・資源管理に関する視察対応に同席しました

10月2日、キンメダイ漁業の事業化を検討している沖縄県与那原・西原町漁協が、伊豆漁協を視察に訪れました。

下田では立て縄による操業（日戻りと数日間の操業の2種）と底立てはえ縄船による操業が行われています。視察団は、立て縄漁の見学目的で日戻りの漁船に乗船した後、漁協会議室にて、今度は底立てはえ縄船の経営者から漁の方法や漁具の仕立て、資源管理の考え方について説明を受けていました。

当场からも、キンメダイの大きさによる分布の違いや成長について説明した後、賀茂船主組合キンメ部会の自主的資源管理の内容とその意図を説明しました。

キンメダイは他の魚と比べ成長がゆっくりで、メスの半数が卵を産み始めるまでに4年

を要する上、寿命は20年以上にもなります。このため、漁を長く続けていくためには卵を産ませながら、上手に資源管理を行っていく必要があります。

伊豆の漁業者が過去から継続してきたキンメダイの自主的資源管理が広く理解され、今後も漁業と資源が持続してほしいと思います。



立て縄漁の見学



底立てはえ縄船船主との意見交換

田子でカサゴ放流

10月23日に西伊豆町田子で東洋水産のCSR活動としてカサゴの稚魚放流が行われました。カサゴの稚魚は田子、仁科、安良里の各地先では漁業関係者によって、田子の大田子海岸では認定こども園の園児によって放流されました（計10,000尾）。園児が放流を行う前に東洋水産から水産食品について、伊豆分場からカサゴの生態について説明を行いました。放流によってカサゴが増え、生き物が豊かな海になることを願っています。



←東洋水産による
稚魚の受渡し



↑カサゴの生態説明

←園児による稚魚放流
（大田子海岸）

中学生が当场で職場体験

10月30～31日の2日間、下田中学校の生徒2名が、伊豆分場で職場体験を行いました。伊豆地域に生息する魚介類、藻類の紹介、伊豆半島の漁業や、伊豆分場で行っている研究・普及業務を学んだ後、魚の種類を調べる作業、イカを計測する作業、イセエビの幼生を採集する器具を用いた計数作業などを体験しました。職場体験の経験を通して伊豆半島の漁業や魚介類、藻類に関心をもってもらい、職業選択の参考にしてもらいたいと思います。



イカの測定



イセエビ幼生の説明

11月の予定 ●潜水調査（稲取、菖蒲沢、白浜） ●キンメダイ親魚捕獲調査（稲取） ●水産・海洋研究発表会（12日） ●青年・女性漁業者交流大会（14日） ●駿河丸キンメダイ漁場地形調査（25～27日） ●プリ資源評価会議（27日） ●スルメイカ資源評価会議（28日） ●河津あおぞらビレッジ対応（30日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

当场には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。